

平成 28 年度第 2 回 城陽市環境審議会議事録

日時	平成 28 年 11 月 25 日（金）午前 9 時 55 分～12 時 00 分	
場所	城陽市役所 第 1 会議室	
議題	会議 ①環境基本計画の総括について ②第 2 次環境基本計画の策定に向けた市民等意識調査結果について ③その他について	
出席者	委員	新川会長、中原委員、堀井委員、田浦委員、宮永委員、奥田委員、堂口委員
	行政	東村市民環境部長、堤市民環境部次長、上羽環境課長、可畑係長

<質疑等の概要>

◆会長挨拶

◆①環境基本計画の総括について

事務局より説明。

会長 : ご質問やご意見はありませんか。

委員 : 総括は誰がどのように行ったのか。また、今後の予定は。

事務局: パートナーシップ会議で議論し課題を洗い出して頂いた。庁内の組織である環境政策推進委員会、環境政策推進本部会議での意見を踏まえて総括として提示した。今後は、総括での「今後の課題」をどのように次の計画に反映させていくか、パートナーシップ会議や本審議会での意見も踏まえて、骨子案や素案を作っていく。

なお、本総括は、市議会に報告し、市のホームページに掲載することも考えている。

委員 : 総括において、目標未達成の分析が描かれていない。

環境指標の達成度は評価されているが、基本目標の達成度が語られていない。

達成度も「概ね順調」等、あいまいで不明確である。

全体的に、未達成の要因の分析、対策が欠けている印象である。

資料 1 の表現と資料 2 及び 3 の意識調査結果が一致していないところが見受けられた。

P. 5、「ホテルの見られる水辺の情報提供・・・周知啓発」とあるが、今まで周知啓発していなかったのか。

P. 7、「前回の市民意識調査（H 2 5）と比較すると、4. 3%低くなっています」とあるが、4. 1%の間違いである。

P. 7、ホテルの減少は護岸工事のせいなのか。

P. 8、基本目標 8 が環境指標のどれと関連するのか分からない。

P11、ごみと水は一人当たりの数値で環境指標が設定されているが、電力は城陽市全体になっている。

P12、今後の課題として太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及率を上げているが、そうした普及率を環境指標にあげるべきではないか。

P13、環境を学ぶ機会の満足度は、資料 2，3 のどの項目に対応するのか。

P14、補助金が環境マネジメントシステム導入の向上につながっているのか。それでは環境に対する意識が向上したとは言えないのではないか。

事務局： 市民意識調査は 4 年に一回、全市的に行っている調査であり、今回の資料 2，3 の調査は計画策定のために独自で実施したものである。

事務局： 今後の課題の記載方法は検討したい。環境指標の基準が曖昧であるとの指摘については、庁内で議論を重ねた結果、A B C D という評価にした。当初は達成度をパーセンテージで評価したのだが、余りにも努力が見えないという意見があり、目標に少しでも近づけばよいのではと考えた。事業者の評価については、アンケートからは読み取れない部分もあるが、日々接している実感から「積極的」と評価した。ホテルの件は、護岸工事でホテルの見える場所に近づけない状況があり、工事が終われば指標は向上すると考えている。周知啓発については甘いと感じている。基本目標 8 の環境指標は「歩行者街路の快適さに対する満足度」に当たると考えている。電力量の指標については、市域全体での表現が一般的であるが、今後検討する。「環境を学ぶ機会の満足度」は産業まつり等のイベントにおける他のアンケートの結果であり、資料 2，3 に対応していない。

委員： 基本計画の P. 102～103 にある「環境基本計画等の数値目標と設定根拠」は素晴らしい資料だ。環境指標が A なら、基本目標が全て A なのか、その関連性の分析が必要だったのではないか。

委員： 私は、総括はわかりやすいと思う。達成状況を概観すると、行政の取り組みはいい評価、市民の満足度や参加は低い評価となっており、そこが今後の課題と思う。

委員： 基本目標 8 に、「城陽さんさんバスの新規路線開設」とあるが、久津川地区では J R 城陽駅に出るバス路線の開設要望をよく聞くが、そのような話は出ていないのか。

事務局： 城陽さんさんバスについてはいろいろな要望がある。高齢者の足の確保は全市的な課題として取り組んでいる。

委員： P. 15、地球環境問題に対する関心度向上に向け、環境を考える日の制定を提案したい。城陽市からも京都府に働きかけてほしい。

◆②第 2 次環境基本計画の策定に向けた市民等意識調査結果について

事務局より説明。

会長 : ご質問やご意見はありませんか。

委員 : 回答数が低いですが、前回と比べてどうなのか。

事務局 : 15年前のアンケートは回収率が69.5%だが、別のアンケートでは2,000人を対象にして回収率が47.4%であり、統計学上は問題ないが、若年層の回答が少ない。若年層の意見の抽出作業を進めている。

委員 : 一般的には10%ないので、今回の回答率は高いと思う。

委員 : コンサルを使うなら、現状把握と今後の方向をもう少し掘り下げるべきだった。P.14、地球温暖化に伴う気候変動の設問では、関心のある理由も問うてほしかった。調査結果を次計画にどうつなげるかが大切である。

委員 : 市内の事業所はいくつあるのか。

事務局 : 事業所数は全産業で2,491である。(平成24年の数値)

委員 : 再生可能エネルギーでは、共同発電を進めてほしい。

事務局 : 市民団体の共同発電、セミナーなどには後援をしている。公共施設への太陽光発電の導入に関する計画はあるが、市の施設を貸し出す方針はない。

委員 : 本調査で、いい情報が得られているので、背景を分析しながら今後に活かしてほしい。

会長 : 市において、今後クロス集計もしてもう少しきめ細かく分析される。

委員 : 高齢化が進んでいるので、交通・ごみ対策の重要性を切実に感じた。

◆③その他について(「第2次環境基本計画策定体制図」(参考資料))

事務局説明。

会長 : ご質問やご意見はありませんか。

委員 : 自分は30代だが、アンケートで30代の意見を知りたい。若い世代の目線も大事にしてほしい。

会長 : 今後の計画策定に向けても、若い世代の声を拾う工夫を考えてほしい。

委員 : ドイツの自治体の話を聞く機会があったが、ドイツは難民による人口増加の中で、街づくりや温暖化対策など先を行っている。ドイツの自治体の活動も参考にしてほしい。

会長 : これまで先進的に進めてきた城陽市、環境トップランナーとして、十分に議論していただきたい。新名神や東部丘陵の開発も含めて、将来の基盤もできつつあるが、今後の持続可能な社会を目指して、皆さんと一緒に議論していきたい。

以上